

# 挑む!

神戸アジアン食堂バル店長

黒田 尚子さん(28)

## 彼女たちの料理 きつと光に



タイや中国などアジア4カ国・地域の女性たちが日替わりで厨房に立ち、腕を振るう。神戸・南京町のそばに「神戸アジアン食堂バル S.A.L.A」を一昨年の7月、オープンした。

結婚を機に来日しても、言語や文化の違いから家に引きこもりがちになってしまう。そんな生きづらさを感じている女性たちの声を、関西学院大に10年前にできた社会起業学科の1期生として学んでいたときに聴いた。支えになればと、彼女たちが作る料

神戸市出身。大学卒業後、リクルートライフスタイルで約3年半勤務した後、父親(57)と店を開いた。接客などを含めた外国人スタッフは6カ国計10人。

理を提供する屋台を友人たちと学内に出した。すると、30分で完売に。自国の料理を「おいしい」と喜んでもらえ、お金も手にできた経験が自信になるのを目の当たりにした。ただ、「学生が自己満足でやっている」と心ない批判を浴びせる人もいた。「学生なりに必死でやっているのに」と思う一方、ボランティアのままでは人手や資金面で支援の広がり限界も感じた。

卒業後、いったんは就職。起業を見据え、情報誌「ホットペッパー」の営業や編集などに携わった。どうすれば客が足を運んでくれるのか。約3年半、飲食店経営者と議論を重ねた。店を開いてまもなく2年。ビジネス

として成功すれば、みんなもやってみようと思えるのでは。それがきつと「社会にとつての光」になる。そう信じている。

文・写真 野平悠一

記者から

社会的な課題の解決を目指すソーシャルビジネスの取り組み。今後の広がり期待したい。